

### 目次

- ・ ついに共働舎とんぼガーデン改修！…… 1
- ・ ネイチャーゲーム in 新宿御苑…… 1
- ・ どんぐり苗100本移植の巻…… 2
- ・ 高校生とビオトープ池作り…… 2
- ・ 田んぼから…… 2
- ・ 観察会（夜間・学校）…… 2
- ・ ヘレナさん講演会&クマールさん…… 3
- ・ ニホンリスのパネル展示を見ました…… 3
- ・ 駅前再開発とツバメの巣…… 3
- ・ 蚕をめぐって…… 4
- ・ 我が家のお客様…… 4
- ♪ 昆虫がテーマの映画その3 『バグズライフ』 … 2
- ♪ ページをめくるひとときその2 『山に行く』 … 3

★ついに共働舎とんぼガーデン改修！★このところ毎号お伝えしている共働舎とんぼガーデンの様子。利用者さん、職員の方、ビオトープ管理士プロ講座の仲間達とともに、ついに改修作業を実施しました(6月12日)。



施工前の様子

まず鍬やスコップでひたすら掘る作業。そして漏水しないようにシートを敷き、その上に土をかけていきます。土運びには利用者さんも大活躍！土を入れたら、大勢で踏んで固めます(写真右)。これがまたなかなか楽しい～。そして予め近くの水辺で採取した植物達を利用者の人たちに植



えてもらい、水を入れて完成！汗だくになって丸1日かかりましたが、爽快でした。が、私は何となく翌日まで気持ちが落ち着かず、次の日行って池が無事に(?)あるのを見て、



完成！

やっとなつとした次第です。しかもその日の朝早速、オオシオカラトンボが来て産卵までしてくれたことを利用者の方や職員の方が教えてくれました。利用者の人たちもよく様子を見に来ているようで、とても嬉しく思いました。さあ、これからどんなふうになるのか、どんな生きものが来てくれるのか、楽しみです。またレポートします。

★ネイチャーゲーム in 新宿御苑★今年も新宿御苑でネイチャーゲームをはじめとする活動で自然とのふれあいを楽しみました(6月10日)。今回は「新宿・子育てを考える会」と「新宿子ども劇場」さんからのご依頼で、午前と午後に1回ずつ実施。集まった皆さんは親子



大きなヒマラヤ杉の傘の下で、みんなも木になったよ (photo: H.Nishimura)

で、子どもは3歳くらいから小学校低学年くらいの子たちです。森の中でいろんなにおいを探したり、小川に笹舟を流したり、野原でいろんな色を見つけて、草や土の「絵の具」で絵を描いたりもしました。朝から雨模様でしたが、お昼前に滝のような(←大げさではなく!)雨が降り、近くのあずまやに駆け込んで避難！午後は雨がパラつく状態でしたが、終わる頃にはお日様が。思わずみんなで青空と流れる雲をしばしの間眺めました。雨が降ったので、地面に寝転がったり、裸足で歩いたりはできませんでしたが、あんな大雨も子どもはどこか楽しんでいるみたいでした。

★どんぐり苗100本移植の巻★知人のSさんから相談を受け、「行き場を失った」どんぐり苗約100本の移植のお手伝いをしました(7月4日)。

どんぐりの種類はクヌギ、シラカシ、スダジイ、マテバシイ、ウバメガシです。Sさんは養護老人ホームで園芸クラブのボランティアをしていて、「苔玉作り」のために昨年秋にお年寄りと一緒にどんぐりの種まきをしました。しかしその後どんぐり苗は苔玉には向かないと判明、100本の苗をどうしたら…と悩んでいたのです。

そこで、種まきをしたお年寄りが身近で木の成長を感じられるのが良いのでは、ということでホーム内の空きスペースに何ヶ所かに分けて植えることにしました。

ここで私が悩んだのが、ウバメガシのようなこの地域在来のものではないどんぐりの苗も混ざっていたことです。

しかしその苗だけを処分するのは、種まきした人の気持ちやその植物のことを思うと忍びない。Sさんにそのこ



植える時はホームのお年寄りと一緒に

とを話したうえで、苗と苗の間隔を狭く取り、種類を混ぜて植えることを提案しました。密度が高いのである程度淘汰も

されますが、ウバメガシなどは積極的に間伐して材として活かすこともできます。

もちろん、間伐ができるようになるのは何年も先ですが、新たに生きもの(動物でも植物でも)を導入する時は、いろんな意味で先を見据えることが大切だと改めて感じました。緑化のための木も草も、ただ増やせばいいというものではないのですね。

★高校生とビオトープ池作り★授業の一環で田んぼ作業に来ている高校の生徒さんが、県教育センターの敷地内にビオトープ池を作るというので、そのお手伝いをしました(7月13日)。

指導はセンターの方(高校の理科の先生)です。共働舎で行ったのとはまた少し違うやり方を体験しました。約10平米の池の輪郭に沿って、田んぼで鍛えた力で生徒6名がガンガン掘っていきます。私もつられてザクザク。

予定地の周囲は高い木々に囲まれており、隣接して別の池もあります。この水辺にも今後どんな生きものがやって来るのか待つとともに、広い範囲で見てここに水辺

があることの影響などを考えたいと思います。

★田んぼから★春から夏にかけての田んぼは大忙し

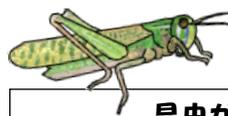


田植え直後にカルガモに倒された苗。あとで直しました。

です。田起しに始まり、代かき、田植え、草取り、その間の水管理…。7月の草取りが終われば、ちょっとほっとします。田んぼで

は稲とともにいろんな生きものが育っていますが、前号でアキアカネ(赤とんぼの1種)が晩秋の田んぼに産卵したことをお伝えしました。そして春。田植えや草取りをしながら何匹もアキアカネのヤゴや羽化したあとの抜け殻を見つけました。どうやら卵で冬を越し、春、田んぼに水が入るとともに孵化して成長したようです。こんな発見が田んぼの作業を一段と楽しくしてくれます。

★観察会(夜間・学校)★今年も夜間観察会や小学4年生との自然観察会を担当しています。ホテルの定点観測も継続しており、データのまとめと活用が課題となっています。小学生との観察会では、田んぼとその周辺の生きものをテーマに水生生物を観察していますが、秋以降は公園にたくさんいるタイワンリス(外来種)についても学ぶ予定です。



### 昆虫がテーマの映画★その3

#### 『バグズライフ』、USA、98年

私はこの映画を観て、「アニメ映画」を見る目が変わった。それはその美しい映像ゆえである。ディズニーとピクサーの共同制作であるこの作品は、全編CG(コンピューター・グラフィックス)で描かれているが、その虫たちの立体感や草が光や風を受けてそよぐ様、空や緑の色の美しさに心底、驚いた。

「バグ」とは虫のこと。主人公はアリの国のアリたちだ。横暴なバグたちに奴隷のように使われるアリたちが奮闘し、やがて自主自立の心に目覚めていくストーリー。アリとバグのほかにもテントウムシやダンゴムシ、芋虫やカブトムシたちが重要なキャラクターとして登場。この映画を観ると、うっかり踏んでしまいそうな足元のアリを見る目が変わるかもしれないね!



**★ヘレナさん講演会&クマールさん★**ヘレナ・ノーバーク・ホッジさんの講演会「懐かしい未来とスピリチュアリティ〜本当の学びと幸福とは」を聴きに行きました(主催 NPO 法人開発と未来工房&ジュレー・ラダック、7月10日・明治学院大学白金キャンパス)。

ヘレナさんはスウェーデンの方で、インド北部のラダック地方で土地の人と交流しながら私達の本当の幸福と学びはローカリゼーションにあるということを見出しました。

ローカリゼーションとは、地域に生きるということ。すなわち、人とのつながり、自然とのつながりを回復することが大切だということをラダックでの事例などを交えながら語りました。その内容に私は共感するとともに、ぼんやりとしていた視点がより鮮明になるような、よく漫画で頭の上にピカッと電球が光りますが、まさにそんな感覚になりました。

当日、会場で販売されていた過去の講演録にサティシユ・クマールさんの『土と心と社会』もあり、この内容にも感銘を受け、現在、その著書『君あり、故に我ありー依存の宣言』を書店に注文中です。

**\* 開発と未来工房のHP** <http://adf.jp>

**★ニホンリスのパネル展示を見ました★**井の頭自然文化園(東京都武蔵野市)で「ニホンリスパネル展」(企画/制作 井の頭自然文化園、リス・ムササビネットワーク)を見ました。

あなたはリスというと、どんなリスを思い浮かべますか? 縞模様のあるリスを思い浮かべる人も多いかもしれませんが、それはエゾシマリスといって、実は北海道にしか生息していません。私には幼稚園で飼っていたリスにせつせとクルミのエサをやっていた思い出がありますが、そのリスは縞模様がありました。なので、私も「リス=縞模様」と長いこと思い込んでいたものです。

本州・四国・九州に広く生息するリスはニホンリスで、灰色の毛に白いおなかの特徴です。

このパネル展では、ニホンリスの巣や食べもの、子育てなどその生活ぶりを紹介し、食べあとのクルミや松ぼっくり、リスの骨格標本、リスの重さを感じる模型などの展示もあり、立体的にリスについて学ぶことができるよう工夫されています。

その後、隣接する「リスの小径」へ。小さな建物の中で放し飼いにされたニホンリスの様子を間近で観察することができます。

見ていて面白かったのは、地面におなかをこすりつけながら歩く姿(写真)。体を冷やしているのかもしれないそうです。

私は普段、外来種であるタイワンリスを見慣れているので、ニホンリスの華奢な感じにも驚き、もしタイワンリスとニホンリスが競合したら、体の大きさだけが理由ではないけど、ニホンリスは負けるだろ



うな、と改めて感じました。※「ニホンリスパネル展」は、森林総合研究所多摩森林科学園(東京都八王子市)において、8月14日～11月30日まで開催予定。

**\* リス・ムササビネットワークの HP**

<http://www.rimunet.jp/>

**★駅前再開発とツバメの巣★**最寄の戸塚駅西口がついに再開発に突入しました。私自身は、商店街がなくなって、ビル化されてしまうことは反対です。しかし、6月1日から商店街の中には入れなくなり、一斉解体工事が始まってしまいました。

その工事の直前、ツバメの巣がいくつか建物の軒先にあることに気がつきました。このまま工事に入ればツバメも…。その少し前に、工事予定地のスマレ保護の件で相



談した再開発事務所に、ツバメの件でも保護するようにお願いをしました。また同時に張り紙もあり、同じように思う誰かが貼ったものようでした。

私がツバメの巣を見ていると、やはり心配して声を掛ける

### コーヒーとともにページをめくるひととき…★

#### その2

『山へ行く』 萩尾望都著、小学館、2007

私は漫画が大好き。夜布団に入って眠りに落ちる前に、お気に入りの漫画を読むのが至福の時だ。今気に入っているのがこの本。萩尾望都を読み始めたのは多分高校生くらいからだが、作品はそれ以前の初期の頃から好きだ。表題作を含む短編10編が収録されているこの本は最新の単行本だろう。ユーモアと不思議さ、奇想天外さとナイーブさが神出鬼没に立ち現れる「望都ワールド」を存分に楽しめる1冊!

人もいました。声には聞こえなくても、小さな命を心配している人が意外と多いのかもしれないと感じました。

そして事務所でもきちんと対応をしてくださり、子が巣立つまではその建物の解体をせず、待っていただきました。そして6月中旬、ツバメ達は巣立ち、少しして建物も取り壊されました。

しかし、大規模なビル化などにより、ツバメが巣を掛けやすい建物が減り、巣材である土も減ると来年もまた駅前にツバメがやってくるかどうかはわかりません。

**★蚕をめぐる★**蚕が卵からかえって繭を作るまでを観察しました。蚕は家畜化された昆虫ですが、それを実感したことが2つありました。1つは、幼虫(蚕)の動きが鈍いこと。浅い箱に入れて桑の葉を与えますが、箱を乗り越えて外へ出て行くことはほとんどありません。また、桑の葉を捜し求めて動く範囲もかなり狭いので、そばに葉をおいてやらないとならない。

もう1つは、繭からかえったカイコガが飛べないことです。まったく飛ばずにすぐに雄と雌は交尾をし、産卵して死ぬのです。

また、幼虫が繭を作る過程を初めて見ました。幼虫は口から糸をはきながら体をくねらせ、頭を八の字に振り、見事に繭を作っていきます(写真)。そして、幼虫自身の



体はだんだんとしわしわになり、かたく、ひかればらびたようになっていきます。このあと繭の中で蛹になる、その変化の兆しでしょう。私には、

身を削って糸をはき続けるように見えて、哀れを感じました。その糸を私達は身につけているのです。

しかし、考えてみれば私達は毎日の暮らしの中で、肉や魚を食べ、農薬などで虫を殺して作られた野菜を食べ



## 編集後記&自己紹介

★私は、横浜市の里山を生かした公園のスタッフとして自然の保護・保全やイベントの運営に携わる一方、「あおぞら自然共育舎」として、フリーランスで自然体験・再生・創出のための仕事をしています。「気づき」を大切にするのが信条。この通信で自然のことや私がやっていること、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントのようなことも、お伝えできたらなあと思っています(今回は泣く泣く割愛したものも…) ★今のところ、この通信は私が会った方や知っている方にお渡しするだけになっていますが、ご家族やお友達との回し読み歓迎です☆☆☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。



**\*仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！→[hiromi-h@river.dti.ne.jp](mailto:hiromi-h@river.dti.ne.jp) 早川広美(あおぞら自然共育舎)**

今回、蚕の一生を目の当たりにして、舞踊家・佐藤道代さんの「シルク・マザー」という踊りを重ね合わせました。この作品は、明治から昭和初期にかけての富国強兵策の元で、時に命を落とすほど劣悪な労働環境で生糸産業に携わった女性たちと、繭のうちに煮られて死んでしまう「お蚕様」へのオマージュ(敬意)として作られたものです。両者の共通点は「自己犠牲」。その自己犠牲を強いたのは、強大な権力。今もないとは言い切れないという社会のあり方への抗議を込め、女性たちと蚕の声に耳を傾けそのメッセージを踊りたいという、佐藤道代さんの思いがあふれる作品です。

いろんな思いが私の中にも生まれ、今回の観察の最後に繭から糸や真綿をとることに私は参加できませんでした。どうも気が進まなかったのです。

でも、今はやってみたいと思います。多くの命に支えられている自分から目をそらさず、いつかは消える命に向き合うためにも。

**\* 佐藤道代さんの HP**

<http://home.att.ne.jp/alpha/idance/>

## ★我が家のお客様★



ベランダの掃除をしていたプランターをどかしたら、そこにいたヤモリ。我が家を守ってね!(7月9日)



夜、気がついたら家の中にいたイトトンボ。アジアイトトンボの雄でした。一体どこからやってきたのだろう。(7月8日)